

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370844

研究課題名(和文) 東部ユーラシア史の視野における魏晋南北朝政治史の新研究

研究課題名(英文) A New Study of the Political History of the Wei, Jin, and Northern and Southern Dynasties from the Perspective of East Eurasian History

研究代表者

小尾 孝夫(OBI, TAKAO)

大東文化大学・文学部・講師

研究者番号：90526675

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：従来、魏晋南北朝の政治史は、多くの場合、正史の影響を強く受け、各王朝史の枠組みのなかで論じられてきた。本研究では、こうしたかつての枠組みではなく、より大きな歴史的な視野での東部ユーラシア史のなかでその政治史を論じ直すことを目指した。そうしたなかで、各時代において、戦争、移民、交易、文化交流などが各王朝の政治に与えた影響を具体的に検証するとともに、一見国内的な政治事件に見える事件の背後に王朝の枠を超えた多元的な世界の影響のあることを確認してきた。また、魏晋南北朝通史の新しい時期区分についても提案した。

研究成果の概要(英文)：In the past, the political history of the Wei, Jin, and Northern and Southern Dynasties has often been strongly influenced by official histories and discussed within the framework of the history of each dynasty. The aim of the present study has been to reconsider their political history not within such past frameworks but from the broader historical perspective of East Eurasian history. As well as examining in concrete detail the influence that war, migration, trade, cultural exchange, and so on had on the politics of each dynasty in each period, I have confirmed that behind events that may at first sight appear to have been domestic political incidents there lay the influence of a pluralistic world transcending the bounds of individual dynasties. I have also proposed a new periodization of the overall history of the Wei, Jin, and Northern and Southern Dynasties.

研究分野：中国魏晋南北朝史

キーワード：東部ユーラシア史 魏晋南北朝 政治史

### 1. 研究開始当初の背景

日本の魏晋南北朝時代の政治史は、これまで、多くの場合、正史の枠組みを踏襲し、あらかじめ王朝ごと、あるいは南朝と北朝に分けて論じられてきた。また、当時の基本的な権力関係を皇帝対貴族の対立において把握したため、魏晋南北朝時代の政治史研究はすなわち貴族制の研究であると言ってもよい状況にあった。

### 2. 研究の目的

魏晋南北朝時代は、多国間的な国際関係が成立する時代であり、東部ユーラシア世界の形成期と言える。本研究では、従来の魏晋南北朝政治史の限界を克服するために、当該時代政治史を正史の枠組みから解放し、より大きな歴史的な視野での東部ユーラシア史のなかに位置づけ直すことを目指した。

### 3. 研究の方法

魏晋南北朝の政治史が、東部ユーラシアの動向と無縁ではなかったということを実証するために、各時代において、戦争、移民、交易、外来宗教、文化交流が各王朝の政治に与えた影響と、そして一見国内的な政治事件に見える事件の背後に王朝の枠を超えた多元的な世界の影響のあることを具体的に検証した。また上記問題と関連し、魏晋南北朝通史の新しい叙述方法提案の可能性についても議論を重ねた。

### 4. 研究成果

(1) 本研究は、六朝政治史研究会を基盤として活動をおこなった。本研究では、研究の方向性や役割分担を確認するとともに、本研究の問題意識を共有し、上記研究の目的・方法等を具体的に検証する必要から、毎年3回の研究会と研究打ち合わせをおこなうことを目標に掲げた。予算等の都合から目標の達成に困難もあったが、平成26年度は、計3回、平成27年度、平成28年度は、それぞれ計1回の研究会と研究打ち合わせを実施することができた。

(2) 研究代表者は、戦争や移民といった問題が東晋南朝の政治史に与えた影響を具体的に検証した。まず注目した問題は、北方からの移民および当時の軍事問題が東晋南朝における主要帝都・建康の発展史にどのような影響を与えたかである。

検討の結果、これまで六朝の帝都・建康は貴族の都というイメージが非常に強烈に存したが、建康が膨大な北来流民の集積地であると同時に、軍事都市としての性格が濃厚であることを指摘した。この建康の歴史的な性格は、建康の発展史と密接な関係を有していた。すなわち、後者の軍事都市としての性格は、南朝時代になり、国軍体制が中央軍を中心としたそれに再編されるなかでますます顕著となり、前者の北来流民の流入に加え、建康

の人口増加を促進させる一因となっていたことを明らかにしたのである。

また、建康の都市としての発展は、南朝の梁代まで続き、その人口の居住地は郊外へ郊外へと広がっていく。そうしたなかで、建康に流入する移民の配置場所にも困ることとなり、その結果、建康の都城圏は、長江の対岸にまで拡大していくことをも解明した。

こうした建康の歴史的発展は、当然当時の政治史とも密に関わっている。その発展が、東晋南朝という王朝の枠組みを超えた、北来の流民や、当時の軍事の問題と関係していたことを明確にし得たことは、東晋南朝の歴史を東部ユーラシア史のなかに新たに位置づけていくうえで、重要なことと思われる。

次に、代表者が取り組んだのが、南朝の一政治的事件が王朝の枠組みを超えた東部ユーラシア世界の影響を受けているか否かという問題である。

その際、南朝宋文帝の元嘉七年(430)第一次北伐の実施問題に焦点を絞った。従来、宋文帝の北伐実施理由については、その在位中、三度も北伐を実施していることから、父武帝の偉業を継承しようとした文帝の個人的意向の面から説明されることが多かった。そうした理解に対し、今一度当時の国際情勢から検討を加え直した。結果、元嘉七年前後の華北は、北魏が台頭する一方、他の夏・西秦・北涼・北燕・後仇地といった諸政権は劣勢に追いやられる情勢にあった。この元嘉七年の北伐は、そうした情勢を衝いた征討であったこと、またこの北伐が宋の官爵を受けた北涼、吐谷渾、高句麗、そして遠くモンゴルにあった柔然との連携のもとに実施されていたことを明らかにした。また、当時、東部ユーラシアにおいて国際関係の再編の動きが活発化しており、その盛り上がりの頂点にあったことをも指摘した。

当該研究の取り組みを通して、東部ユーラシア史における東晋南朝の役割の重要性を新たに認識するに至った。今後継続して取り組むべき課題を得られた。

この他、研究分担者と連携研究者は、本研究に関わる成果を論文として公表するとともに、学会で発表している。

(3) 本研究の試みや方法論を国際的に通じるものに鍛えるべく、本研究の目標の一つである中国魏晋南北朝史における新たな時期区分の提案という問題に絞って、平成28年1月9日10日に、韓国のソウル大学校において、国際シンポジウム「欧亜大陸東部視角所見中国中古史的転折點と新歴史分期的探索(東部ユーラシアの視野から見た中国中古史の転換點と新時代区分の可能性)」を開催した。発表者、発表タイトル等は以下の通りである。

#### 1日目

・渡邊将智「中国古代北方民族的遷徙和自立以漢朝的北方民族政策為線索」

・永田拓治「賢的記憶与叙述 漢晋時期的人物叙述」

・会田大輔「北周武帝的禁衛改革和華北統一」  
・小尾孝夫「南北朝時期的轉折点之一 從探討劉宋元嘉北伐出發」

2 日目

・金秉駿（ソウル大学校）「古代帝国之衰落 圍繞“古代”概念」

・村井恭子「中国史相對化的動向与圍繞日本唐史研究的情況」

・河元洙（成均館大学校）「從再考科举制看到的中国史的另一面」

・岡田和一郎「從中国国家形成史来看東部欧亚大陸与時代画分」

・辛聖坤（漢陽大学校）「從身分史的觀點来看魏晉南北朝隋唐史的時代認識」

・崔宰榮（翰林大学校）「隋唐長安城和市場之位相」

・齊藤茂雄「7～9 世紀内亞地区突厥歴史」

・佐川英治「東亜史“古代末期論”的可能性」

・趙晟佑（ソウル大学校）「試論中国弥勒信仰的形成与特徵 從宗教看中古中国」

1 日目は、主に漢、魏晉、北朝、南朝の専門家から、各自の専門分野においてどのような時期区分を新たに設定することが可能かについて発表された。2 日目は、引き続き、本研究のメンバーからは、各自の専門分野における新たな時期区分の可能性について報告された。また、韓国の参加者からは、各専門領域の紹介と時期区分についての提言がなされた。本研究に対する韓国の研究者の関心は非常に高く、活発な議論がおこなわれた。この新しい時期区分の問題は、今後学界においても注目し議論される重要なテーマになるものと思われる。

最終年度は、本研究における成果や問題意識について学界に発信すべく、平成 28 年 9 月 18 日に、連携研究者の佐川が研究代表者である科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）と共催で、国際シンポジウム「中国中古史像の再検討」を東京大学で開催した。発表者、発表タイトル等は以下の通りである。

・辛聖坤（漢陽大学校）「北周建德 6 年（577）部曲・客女身分の登場とその意味」

・岡部毅史「六朝皇后制管見 皇后の「在位」を手がかりに」

・魏斌（武漢大学）「「山中」の六朝史」

・趙晟佑（ソウル大学校）「北朝における弥勒救世主信仰の形成 敦煌偽経を手掛かりに」

シンポジウムには多数の研究者が訪れ、総合討論では、多くの貴重な意見が提出された。

（4）研究代表者は、毎年、国外の国際学会に参加し、本研究の取り組みを中国ならびに台湾、韓国などの若手研究者に紹介して問題意識のすりあわせを試みるとともに、成果の発信をおこなった。そうした成果として、今年も中国魏晉南北朝史研究会（中国・邯鄲市）

中国中古史青年学者聯誼会（中国・北京市）等の国際学会に招待されており、継続して国際的な学术交流の機会を得られている。

（5）本研究が、魏晉南北朝の各時代史において多くの新たな知見をもたらしたこと、また本研究の取り組みが学界に一定のインパクトを与えたであろうことについては自負するところである。今後は、各時代で得られた成果を有機的に結びつけ、分裂していた中国の各王朝が、周辺世界をも巻き込んだ多元的な東部ユーラシア世界を構成していたことを明確に描き出し、そこに新たな時期区分を当てはめていく議論をおこなっていかねばならない。残された課題である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 23 件）

小尾孝夫、六朝建康墓区の変遷及其郊外の拡大、「六朝歴史与南京記憶」国際學術研討会論文集、査読無、2017、64-81

佐川英治、六朝建康城与東亜都城、「六朝歴史与南京記憶」国際學術研討会論文集、査読無、2017、11-18

永田拓治、漢晋時期流行的別伝：「正」と「別」、中国學術、査読有、第 38 輯、2016、印刷中

村井恭子、大唐西市博物館新蔵唐 張茂宣墓誌 考、董劭偉主編『中華歴史与传统文化研究論叢』、査読無、2 卷、2016、159-176

小尾孝夫、劉宋文帝元嘉七年北伐与欧亚大陸東部局勢、第四届中国中古史前沿論壇論文集、査読無、2016、154-160

小尾孝夫、六朝建康都城圈の形成与江右地区、中国中古史集刊、査読無、第二輯、2016、40-57

小尾孝夫、南北朝時期的轉折点之一 從探討劉宋元嘉北伐出發、欧亚大陸東部視角中国中古史的轉折点与新歴史分期的探索 1 日目予稿集、査読無、2016、45-50

永田拓治、賢的記憶与叙述 漢晋時期的人物叙述、欧亚大陸東部視角中国中古史的轉折点与新歴史分期的探索 1 日目予稿集、査読無、2016、6-21

岡田和一郎、從中国国家形成史来看東部欧亚大陸与時代画分、欧亚大陸東部視角中国中古史的轉折点与新歴史分期的探索 2 日目予稿集、査読無、2016、8-11

村井恭子、中国史相对化的動向与圍繞日本唐史研究的情况、欧亞大陸東部視角中国中古史的轉折点与新歴史分期的探索 2 日目予稿集、査読無、2016、3-7

佐川英治、東亞史“古代末期論”の可能性、欧亞大陸東部視角中国中古史的轉折点与新歴史分期的探索 2 日目予稿集、査読無、2016、14-15

佐川英治、北魏六鎮史研究、中国中古史研究 中国中古史青年学者聯誼会会刊、査読有、第 5 卷、2015、55-128

村井恭子、河西と代北 九世紀前半の唐北辺藩鎮と遊牧兵、東洋史研究、査読有、74-2、2015、47-82

佐川英治、六朝建康城与日本藤原京、南京曉莊学院学報、査読有、2015 年第 4 期、2015、22-29

小尾孝夫、建康の性格と都城圏の形成、「六朝建康城 東方大都会」国際高層論壇論文集、査読無、2015、20-27

小尾孝夫、広陵高崧及其周辺 六朝南人の一個側面、南京曉莊学院学報、査読無、2015 年第 1 期、2015、16-24

小尾孝夫、建康の性格と都城圏の形成、国際研究集会 魏晉南北朝の主要都城と都城圏社会 予稿集、査読無、2014、81-92

佐川英治、宗廟与禁苑 中国古代都城的神聖空間、神聖空間 中古宗教中的空間因素、査読無、2014、106-133

永田拓治、日本“石刻史料と史料批判による魏晉南北朝史の基本問題の再検討” 科研項目活動紹介、中国中古史研究 中国中古史青年学者聯誼会会刊、査読無、第 4 卷、2014、307-309

岡田和一郎、北朝国制史の研究動向、中国史学、査読有、第 24 卷、2014、121-138

①小尾孝夫、永嘉之乱後の江淮士族と地域社会 以対広陵的探討为中心、皇帝单于士人 中古中国与周辺世界、査読無、2014、153-163

②岡田和一郎、前期北魏国家的民衆控制、制度与権力 第八届中国中古史青年学者国際会議論文集、査読無、2014、90-104

③小尾孝夫、建康「都城圏」社会及長江対岸、第二届中国中古史前沿論壇論文集、査読無、2014、35-39

〔学会発表〕(計 30 件)

小尾孝夫、六朝建康墓区の変遷及其郊外の拡大、「六朝歴史与南京記憶」国際學術研討会、2017 年 3 月 12 日、南京(中国)

佐川英治、六朝建康城与東亞都城、「六朝歴史与南京記憶」国際學術研討会、2017 年 3 月 12 日、南京(中国)

佐川英治、Research into a Northern Qi pillar honouring a local Buddhist Benevolent Society、International Conference “Law and Writing Habits in the Ancient World”、2016 年 9 月 1 日、ロンドン(英国)

佐川英治、北魏末期北辺社会与六鎮之乱 以楊鈞墓誌与韓買墓誌為線索、秦漢魏晉南北朝史国際學術研討会、2016 年 8 月 19 日、襄陽(中国)

村井恭子、懐信と保義の間 ウイグル可汗冊立關係記事の再検討、第 57 回中央アジア学フォーラム、2016 年 7 月 30 日、大阪大学(大阪府・豊中市)

小尾孝夫、劉宋文帝元嘉七年北伐与欧亞大陸東部局勢、第四届中国中古史前沿論壇、2016 年 7 月 24 日、上海(中国)

岡田和一郎、「漢魏故事」考、六朝史研究会、2016 年 5 月 7 日、京都外国語大学(京都府・京都市)

岡田和一郎、從中国国家形成史来看東部欧亞大陸与時代画分、国際シンポジウム「欧亞大陸東部視角中国中古史的轉折点与新歴史分期的探索(東部ユーラシアの視野から見た中国中古史の轉換点と新時代区分の可能性)」、2016 年 1 月 10 日、ソウル(韓国)

村井恭子、中国史相对化的動向与圍繞日本唐史研究的情况、国際シンポジウム「欧亞大陸東部視角中国中古史的轉折点与新歴史分期的探索(東部ユーラシアの視野から見た中国中古史の轉換点と新時代区分の可能性)」、2016 年 1 月 10 日、ソウル(韓国)

佐川英治、東亞史“古代末期論”の可能性、国際シンポジウム「欧亞大陸東部視角中国中古史的轉折点与新歴史分期的探索(東部ユーラシアの視野から見た中国中古史の轉換点と新時代区分の可能性)」、2016 年 1 月 10 日、ソウル(韓国)

小尾孝夫、南北朝時期的轉折点之一 從探討劉宋元嘉北伐出發、国際シンポジウム「欧亞大陸東部視角中国中古史的轉折点与新歴史分期的探索(東部ユーラシアの視野から見た中国中古史の轉換点と新時代区分の可能性)」、2016 年 1 月 9 日、ソウル(韓国)

永田拓治、賢的記憶与叙述 漢晋時期的人物叙述、国際シンポジウム「欧亚大陸東部視角中国中古史的転折点与新歴史分期的探索（東部ユーラシアの視野から見た中国中古史の転換点と新時代区分の可能性）」、2016年1月9日、ソウル（韓国）

佐川英治、北朝出土墓誌と六鎮の乱研究、中国中古世史学会、2015年12月26日、ソウル（韓国）

小尾孝夫、東晋南朝の「軍郡」と義熙土断、大東文化大学漢学会秋季大会、2015年10月24日、大東文化大学（東京都・板橋区）

小尾孝夫、六朝建康の都市空間と墓域、第15回魏晋南北朝史研究会大会、2015年9月19日、東京大学（東京都・文京区）

佐川英治、北魏の六鎮と草原社会の羈縻支配、International Conference “Military Control on Multi-ethnic Society in Early China（中国古代における多民族社会の軍事統治）”、2015年9月10日、ソウル（韓国）

岡田和一郎、「曲赦京師」の時代、科研研究会（六朝政治史研究会）、2015年6月27日、東京大学（東京都・文京区）

小尾孝夫、六朝建康の性格と都城圏の形成、「六朝建康城 東方大都会」国際高層論壇、2015年5月23日、南京（中国）

佐川英治、六朝建康城と日本藤原京、「六朝建康城 東方大都会」国際高層論壇、2015年5月23日、南京（中国）

岡田和一郎、北魏国家の形成と展開、中国国家理論研究会、2014年12月21日、コープイン京都（京都府・京都市）

②④小尾孝夫、建康の性格と都城圏の形成、国際研究集会 魏晋南北朝の主要都城と都城圏社会、2014年12月6日、阪南大学（大阪府・松原市）

②佐川英治、後漢～北魏における洛陽の人口集中と都市空間、国際研究集会 魏晋南北朝の主要都城と都城圏社会、2014年12月6日、阪南大学（大阪府・松原市）

②③佐川英治、從西郊到園丘 『文館詞林』北魏孝文帝祭園丘大赦詔所見孝文帝的祭天礼儀、International Symposium of “Redrawing the Zeitgeist of Medieval China: From the Perspectives of Knowledge, Beliefs and Society and Their Interactions”（“重繪中古中国的時代格：知識・信仰与社会の交互視角” 国際學術研討

会）、2014年11月8日、上海（中国）

②④佐川英治、中国中古の都城設計と天の祭祀、中国中古世史学会国際學術シンポジウム“中国古代都城之結構和其歷史空間”、2014年9月19日、ソウル（韓国）

②⑤佐川英治、北魏末の北辺社会と六鎮の乱 楊鈞墓誌と韓買墓誌、国際學術シンポジウム“石刻史料から見た魏晋南北朝史 北朝史を中心に”、2014年9月15日、東洋文庫（東京都・文京区）

②⑥岡田和一郎、前期北魏国家的民衆控制、第八届中国中古史青年学者国際會議、2014年8月23日、北京（中国）

②⑦村井恭子、藩鎮と羈縻州 九世紀前半の京西京北・河東藩を中心に、2014年度唐代史研究会夏期シンポジウム、2014年8月19日、箱根静雲荘（神奈川県・箱根町）

②⑧小尾孝夫、建康「都城圏」社会及長江対岸、第二届中国中古史前沿論壇、2014年8月12日、武漢（中国）

②⑨村井恭子、「王宰墓誌」と唐宣宗期党項征討の展開、第51回中央アジア学フォーラム、2014年7月26日、大阪大学（大阪府・豊中市）

③⑩佐川英治、唐田令の歴史的考察 均田制と屯田制の關係を中心として、第59回国際東方学者會議シンポジウム（日本学セミナー）“律令制の人民支配の比較研究”、2014年5月24日、日本教育会館（東京都・千代田区）

〔図書〕（計6件）

岡田和一郎、汲古書院、渡辺信一郎・西村成雄編『中国の国家体制をどうみるか』、2017、336（151-186）

小尾孝夫、汲古書院、大阪市立大学大学院文学研究科東洋史学専修研究室編『中国都市論への挑動』、2016、416（197-220）

永田拓治、汲古書院、大阪市立大学大学院文学研究科東洋史学専修研究室編『中国都市論への挑動』、2016、416（133-162）

佐川英治、汲古書院、大阪市立大学大学院文学研究科東洋史学専修研究室編『中国都市論への挑動』、2016、416（383-406）

佐川英治、勉誠出版、中国古代都城の設計と思想 円丘祭祀の歴史的展開、2016、320

永田拓治、東方書店、中国出土資料学会編『地下からの贈り物』、2014、363（332-337）

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小尾 孝夫 (OBI, Takao)  
大東文化大学・文学部・講師  
研究者番号：90526675

### (2) 研究分担者

永田 拓治 (NAGATA, Takuji)  
阪南大学・国際コミュニケーション学部・  
准教授  
研究者番号：40623393

岡田 和一郎 (OKADA, Yasuichiro)  
京都府立大学・文学部・共同研究員  
研究者番号：40721634

村井 恭子 (MURAI, Kyoko)  
神戸大学・人文学研究科・准教授  
研究者番号：50569291

### (3) 連携研究者

佐川 英治 (SAGAWA, Eiji)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教  
授  
研究者番号：00343286

### (4) 研究協力者

渡邊 将智 (WATANABE, Masatomo)  
戸川 貴行 (TOGAWA, Takayuki)  
会田 大輔 (AIDA, Daisuke)  
岡部 毅史 (OKABE, Takeshi)  
齊藤 茂雄 (SAITO, Shigeo)